

ポストコロナ時代を見据えて



八頭町長 吉田 英人

新年明けまして、おめでとうござ
います。

コロナ禍で初めて迎える年末年始
となりましたが、町民の皆様方には、
ご健勝で輝かしい令和3年の初春を
お迎えのことと、心からお慶び申し
上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コ
ロナ感染症により世界全体が大きく
混乱した1年であったように思いま
す。現在も、新型コロナウイルスとの
闘いの最前線で懸命にご努力いただ
いております皆様方に、深く敬意と
感謝の意を表したいと思えます。

日本では、昨年2月頃より感染が

拡大し、イベントの中止や縮小が求
められる中、2月28日には、文科科学
省から全国の小中学校や高校に一斉
休校が要請され、八頭町においても
3月3日から春休みまでの間を臨時
休校としました。さらに4月7日に
は緊急事態宣言が発令。これを受け、
八頭町新型コロナウイルス対策本部を
設置し「新しい生活様式」や感染防止
策を呼びかけるとともに、外出自粛
の影響で売上が落ち込む飲食店等へ
の支援をいち早く決定し、デリバ
リーやテイクアウトなど事業者の方
が積極的に取り組む新しい活動を支
援したところです。緊急事態宣言は
5月25日に全面解除されましたが、
その後も各地でクラスター（集団感
染）が発生し、国内感染者は11月末
で、15万人を超え、感染拡大の第三波
ともいわれています。鳥取県内におい
ても感染者数が増加していることか
ら、引き続き「換気の悪い密閉空間」、
「大勢いる密集場所」、「間近で会話し
る密接場面」の「三つの密」を避けるこ
とも、マスクの着用や手洗いの励
行、人と人の距離の確保など「新しい

生活様式」を徹底していただきますようお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちはこれまで経験したことのない状況下にありますが「こんな時だからこそ」と繋がりや新しい試みを大切にしたいという声が聞こえてきています。好むと好まざるに関わらず、家庭で過ごす時間が増えていくのは誰しも同じです。これは工夫のために与えられた時間なのかもしれません。町にとってもこの工夫の時間を上手に使い、地域の価値を今一度深掘りし、地域のこれまでの物語をはじめ、先人たちの地域づくりの努力の歴史や自然環境を改めて見直すことが、まちづくりの出発点になるのではないかと思います。

昨年、八頭町は合併し、記念すべき15周年を迎えました。これまで人口減少時代と向き合いながら「人が輝き 未来が輝くまち 八頭町」を基本目標に各種施策を実施してきました。また、昨年よりまちづくりの道標となる「第2次八頭町総合計画後期基本計画」、「第2期八頭町総合戦略」がスタートしていますが、現下の社会経済情勢に大きな変化が生じたことを踏まえると、見直しも必要ではないかと考えています。これまで当

たり前と思っていたことが当たり前でなくなり、常識・慣習が激変し、これまで気づかなかった新しい価値観・ニーズが生まれてきています。また、これまで高まりつつあった若者や都市住民の田園回帰の潮流に加え、コロナ禍での働き方改革や、デジタル化の加速の先には、地方への移住・定住・田園回帰の本格化といった新たな価値観が定着していくことが期待されます。これからは、発想の転換と工夫により町の持つ可能性を高めていきたいと思えます。

私たちが目指す「八頭町」は、どのような時代にあっても、どのように厳しい状況下にあっても、希望を持ち、誰もが輝く存在であり続ける地域社会で、互いに信頼し助け合える共生社会の実現だと考えています。この目の前にある危機を何としても乗り越え、ポストコロナ時代の中で、今後も持続可能で幸せな地域づくりを、町民の皆様方とともに進めてまいりたいと考えていますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、新しい年が町民の皆様にとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますようご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。

